

ねらい

5歳児: 小学生や他園所の幼児と出会い親しみをもつ。砂の感触を楽しみ、自分なりに工夫したり試したりして、砂や水に触れて遊ぶことを楽しむ。

1年生: 5歳児と一緒に活動することを楽しむ。砂に触れることを楽しみ、山や川をつくったり型押しをしたりして、手や体全体の感覚を働かせ、活動を工夫する。

本時のポイント

(事前研修の内容)

- ・年度で初めての交流なので、幼保小でのグループは作らず、一緒に楽しいひと時を共有することや、自分のしたいことを試したりできるようにする。
- ・幼保の砂場の環境を参考にし、遊具や用具などの環境を準備する。
- ・当日までに一緒に砂遊びをすることを幼保小の子どもたちに知らせ、活動や関わりに意欲がもてるように工夫をする。

実践内容

環境構成

教師の願い

子どもの言葉や思い

同じ遊びに興味をもっている幼保小の子どもたちが、一緒に活動できるように、砂場の場所を遊びの種類で分けておく。

子どもたちが安心して活動に取り組めるよう優しい言葉かけで見通しがもてるように話そう。



さあ、始まるよ!

おはようございます!
楽しみだね。

教師も裸足になって、
子どもたちの気持ちに
共感したい。



自立心

山の周りに川をつくりたいな。

型押しや泥団子作りの
コーナー

砂を掘ったり、水を流したりして遊ぶコーナー

山づくりの
コーナー

力を合わせて山をつくろう。



協同性

<砂場の用具>バケツ・スコップ・型押し・お皿・コップ・ふるい・じょうろなど



幼保小の子ども同士がつながれるように、橋渡しをしよう。



川ができた。どんどん水を流すよ。

協同性・思考力の芽生え

いいよ!

言葉による伝え合い

1年生、上手だな。

砂の感触、気持ちいい〜!

豊かな感性と表現



数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

豊かな感性と表現

お団子たくさんできたね。

広場に咲いていた花も飾って…子どもの考えは何でも受け入れよう。



いいよ!

協同性

ことつなげようよ。

■事後研修の内容

<教員・保育者の学び>

小学校の教員: 子どもとともに遊ぶ幼保の保育者の姿を見て、さりげなく援助し、子ども自身ができたと思えるようなかわり方を学んだ。また、幼保の砂場の環境を取り入れたことで、子どもの活動の幅が広がったと感じた。今後、子どもの発達に合った用具などを学んでいきたい。

幼保の保育者: 小学校の授業に幼保で経験していることと同じ内容があることが分かり、小学校での学びを意識しながら、幼児期での砂場遊びの経験を十分に充実させることが大事だと感じた。

<子どもの姿>

1年生の姿: 幼保の子どもたちと一緒に活動することで、幼児期の経験を思い出し、安心感や意欲をもつことができた。

5歳児の姿: 1年生に刺激を受け、その後の園生活でも砂遊びを意欲的にするようになった。

交流を振り返って

同じ砂遊びの活動を生かし、ともに活動する授業では、事前の話し合いで、それぞれのねらいを明確にし、ねらいを互いに共有しておくことが重要である。それぞれのねらい達成のために、環境を考え、教師・保育者の支援の仕方をもとに考えることができた。保育・授業の写真や記録などから、幼保小の教師・保育者が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を読み取り、架け橋期の子どもの育ちや学び、発達の似たところや、違いを確かめ合い、つなぐ視点を、今後、より意識していきたい。また、事後研修を確実にに行えるように工夫したい。